

『出来ることを誰かのために』 コリント人への手紙第二 8章10～15節 2016.6.26(聖日礼拝説教より)

『…主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。』Ⅱコリント 8:9

◆エルサレム教会の経済的窮乏を助けようと諸教会が立ち上がった時、パウロは、『あなたがたは、このことを行っただけでなく、他に先んじて願った人たち！持っている物で、それをし遂げることができる(10～11 節)』と語った。この世には多くの貧困があり助けが必要！しかし『私だって大変なのよ！どうすればいいの！』の声に、聖書は、「自分の持っている物で、自分に出来ることをしたい！」と願うことはできるのでは？と問う！

◆神は私たちが持っていないもの、出来ないことを要求されない。マルコ 14 章に、ナルドの香油の壺を割り、イエスに全部注ぎかけたマリヤの話がある。弟子たち「無駄なことをして…」と憤慨したが、イエスは『…この女は、自分にできることをしたのです。埋葬の用意にと、わたしのからだに、前もって油を塗ってくれた…(14:8)』と喜ばれた！彼女は、なんとしても神への感謝を表したい！と、まず願い、神に、人に、社会に対して、自分にできることした！ここに人生の意味がある！『私たちは、力のない人たちの弱さをになうべきで…自分を喜ばせるべきではありません…隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです(ロマ 15:1～2)』！感謝の一言！笑顔一つ！背後の祈り！…はできるのでは！◆次に、何を捧げるにも大切なのは『必要に応じて』。相手の必要・状況に応じて、自分が持っている物を分け合い、互いに過不足なしになる(『平等になる(13 節)』)ことが願われている。出エジプト 16 章の『「多く集めた者も余るところがなく、少し集めた者も足りないところがなかった」と書いてあるとおり(15 節)…』だと。この世の原則は「分ければ減り、もらえば増える」！神の国の原則は「与えなさい、そうすれば与えられる」。与えるほど増え、分け合うほど豊かにされる生き方！あなた方は主を信じ、滅びから救われ、すでに富む者にされた(8:9)！ならば、今、あなたが持っているもの(←実はすべて神からいただいたもの)を誰かの役に立てることを喜びたい！ある発達心理学者の研究で、2歳以下の幼児が、貰うより自分のものを与える喜びのほうが大きかったとの発表がある。神は、すべての人の深層心理に、誰かを助ける喜びを織り込んでおられる！

★神を離れて自己中心になり、妬み、ひがみ、ケチでせこい人間にならぬにはどうすれば良いだろうか？今週、惜しみなく愛される神に立ち返り、与えることを素直に喜び週としたい！